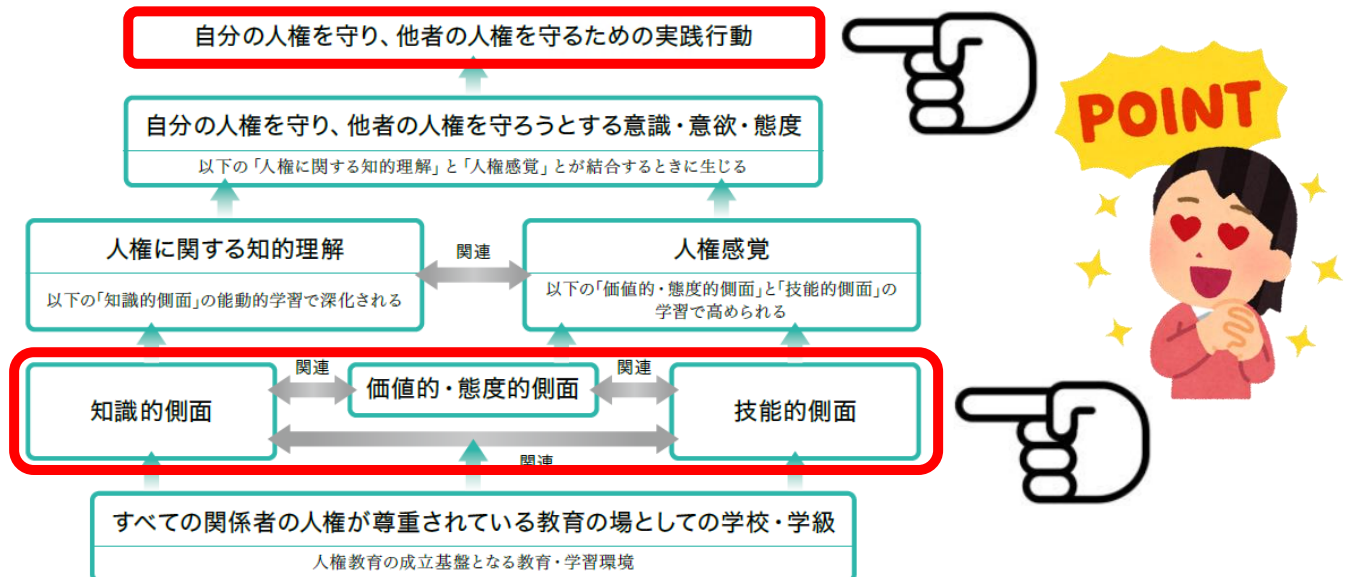


実践行動に結び付けていくには・・・

6月22日の児童生徒支援加配訪問では、日々の業務で忙しい中でしたが、子どもたちの心に届く授業を実践してくださり、本当にありがとうございました。

全体会の際、指導主事(県教委)が今年度妥当性を検討している、「じんけん」学習の5つの仮定義について、下のチャート図をもとにして、ご指導くださいました。



「新潟県人権教育基本方針実践のための『教職員の手引き』」より

知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面の3つを関連させながら、高め、深化させていくことで、実践行動につながっていくことと、「じんけん」学習の5つの仮定義にそれぞれがしっかりと位置付けられているというご指導でした。

住吉小における「じんけん」学習の5つの仮定義と側面(岩野指導主事の価値付けによる)

- ①学級内の不当な差別や社会にある差別問題を知ることができる 知識的側面
- ②差別問題と自分をつなぐ場面(自分の差別意識を見つめる場面)がある 技能的側面
- ③被差別者の思いや差別の不当性に気付く場面がある 技能的側面
- ④授業終末時に差別解消に向けた希望や勇気をもつことができる 価値的・態度的側面
- ⑤仲間との語り合いやつながりが見られる 技能的側面

「差別を許さない」という気持ち(価値的・態度的側面)を強くしても、実際に相手を受容したり、相手の痛みやつらさを想像・共感したりするのは、「スキル(技能的側面)」です。その方法を学習する機会がないと実践行動には身につかないものであると理解してください。



訪問では、県・下越・市の指導主事から、「大いに進んでいる」「他校にも伝えたい」「自信をもっていい」「すぐれた学びの共同体」など、たくさんの声をいただきました。当校の研究の方向性はまちがっていません。**自信をもって、研究を推進していきましょう!**

人権教育、同和教育 Q&A⑧

Q 「じんけん」学習では何を教えればいいのか？

A 「社会に差別があること」を教えましょう。その後は教師も子どもと一緒に立ち位置を考え、見つめましょう。

『うさんくさい人権学習』にならないように…

人権教育を「教える自信がない」という声がよく聞かれます。「何を教えればいいのか」がはっきりとしていないからだと考えられます。教える内容は「社会に不当な差別があること」です。その先にある「差別をなくそうという実感的な理解」は教えることはできません。児童の心の内面にかかわることであり、子どもがその差別問題とのつながりや自分の差別意識を考え、たどり着くことだからです。

「差別はいけない」「しないようにしよう」ときれいな事を教師が語り、「教える」人権学習を『うさんくさい人権学習』とし、県外には『あえて教えない人権学習』を実践している高校があります。その高校では教師の差別問題に関する自己開示を聞くことで、子どもたちが考えるだけです。子どもたちは聞きっぱなしで、感想も書きません。なぜ、そのような実践をしているかというと、「間違い迷う弱い生徒に、間違わない正しく強い教師が教える」の構図がおかしいと考えているからです。人権学習においては教師も一段降り、共に学び・考えることが大切だと言われます。子どもと同じ一人の弱い人間として、自分の弱さを見つめ、そこから学んだことを子どもの心の内面に届けようとする実践です。だから、その高校では子どもに語る前に自分の立ち位置をしっかりと確かめた上で学習に臨むそうです。次にその高校が使っている自分の立ち位置を確かめてみるチェック項目の一部をのせましたので、チェックしてみてください。

子どもに語る前に自分の立ち位置を確かめてみる



Q1 差別はする側の問題？される側の問題？

Q2 差別する人とはだれ？その人はどこにいる？

Q3 する側とされる側。自分はどちら側？

Q4 被差別者側、傍観者側、差別者側。あなたは、どこに立って、子どもに語るの？

Q5 差別はいけないことを教える/差別のない社会をつくる。学習の目的はどちら？

Q6 誰のために差別をなくすの？

A1 差別はする側の問題です。される側に何か問題があったとしても、別の問題として考えられべきであり、差別を肯定する理由にはなりません。
A2 差別する人とは全ての人です。どこにでもいます。
A3 私たちはする側であり、される側でもあります。だから、具体的に差別問題を学び、被差別者の思いに共感し、「しない自分」をつくらなくていいです。
A4 被差別者側に立って、子どもに語りましょう。「じんけん」学習で共感を大切にすることはこの側の思いに寄り添おうとすることです。共感力を高めることは、自分の主観だけで人を決め付けない姿につながります。
A5 差別のない社会をつくることです。今ある様々な人権課題の解消をめざすのが、「じんけん」学習です。新潟県には次の13の人権課題があります。
A6 自分も含むみんなのためです。自分もみんなも幸せになるための学習が「じんけん」学習です。

考え(?)的なもの